

集落営農法人が主体となって取り組むサルの被害防止対策

1 要旨

宇部市小野の大山地区は市の北東部に位置する中山間地域であり、従来から個々の農家による水稲や小麦を中心とした栽培が行われてきたが、個人のみだけでは限界があったため、近年は集落が一体となって地域を支えている。

本地区では、当時大きな課題となっていたイノシシやサルによる農作物被害を防止するため、鳥獣被害防止総合対策事業等を活用し侵入防止柵やサル捕獲囲い罠の設置を行っている。その結果、イノシシについては被害が軽減されたものの、サルについてはサル捕獲囲い罠の設置環境が悪く十分な維持管理が困難であったことから、目に見える実績には繋がらなかった。

そこで、集落営農法人が中心となった集落環境調査によりサルの移動ルートを特定し、有効な場所にサル捕獲囲い罠を移設するとともに、併せて緩衝帯整備を行うことで、サルの捕獲数の増加と農作物被害の軽減を図る。

2 地区の概要

地区名	宇部市小野 大山地区
戸数	66戸
耕作面積	田90ha
主な作物	水稲・小麦・キャベツ・トマト
加害獣種	サル・イノシシ
対策実施年度	令和元年度



3 被害の状況と課題

- サル捕獲囲い罠の設置環境が悪く十分な維持管理が困難であるため、管理がしやすく捕獲数の増加が見込まれる場所への移設が必要。
- 地区の外周にある繁茂した雑木を伝って侵入するサルが散見されるため、伐採による緩衝帯整備が必要。



4 取組内容

(1) 事前現地説明会

集落営農法人の代表者と集落環境調査の必要性について話し合った。

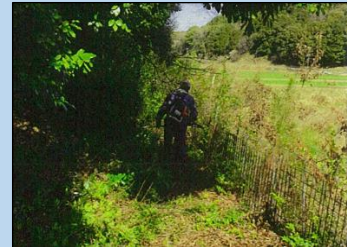
(2) 集落環境調査

地区、市、J A、県など関係者延べ 24 名（7 班に編成）による集落環境調査を実施し、調査結果をもとに今後の対策等を協議した。



(3) 対策の実施

- シカの侵入を防止するため、侵入防止柵の高上げを実施した。
- 繁茂した雑木を伐採し、緩衝帯整備を行った。



5 取組の成果

- 集落営農法人が主体となった集落環境調査により、意識が高まった。
- 対策を実施したことで、サルの群れの頭数増加に関わらず、被害額を抑制できている。

【被害額】

(千円)

区分	事業 実施前	令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
		実績	増減	実績	増減	実績	増減
サ ル	556	570	14	550	▲ 6	-	-

6 地区代表者のコメント

サル捕獲囲い罠については、維持管理が改善されたことで捕獲実績に繋がっている。また、緩衝帯整備を実施したことで、有害鳥獣が出没しにくい環境づくりに繋がったので、地区関係者における意識が高まった。

引き続き、定期的な巡回点検を行う必要性を実感している。

7 今後の取組

引き続き、集落が中心かつ一体となった取組を行い、行政等の関係機関はその支援や助言を行う体制を長期的に図っていくことが必要である。